



## わが子の学力を左右

## するのは「しつけ」！？

MACでは通っているみなさんが気持ちよく学習できる環境を整えるため、また一人ひとりが将来社会に出たときに困らないように、教室での躰（しつけ）には気を付けています。

例えば、教室に入ってくるときは「こんにちは」、帰るときは「さようなら」の挨拶をしっかりする、自分の使った机の消しカスは自分で捨てて帰る・・・などなど、躰というよりは最低限のルールではありますが、これをいい加減にすると教室は秩序を守れなくなるからです。

しかし、この躰（子供への声掛け）が、学力を大きく左右させるそうなのです。

発達心理学が専門の内田伸子先生は、『躰や声掛けの仕方が子供にどのような影響を与えるか』についての、興味深い調査をされました。

あなたの躰は  
どっちのタイプ??

内田先生いわく、躰には以下の二つがあるそうです。

## 【共有型しつけ】

→子どもの気持ちを中心に考え、子どもとのふれあいや会話を大切に、楽しい経験を子どもと共有しようとするしつけスタイル。

## 【強制型しつけ】

→大人中心で、言いつけ通りに子どもを従わせようとするしつけスタイル。罰を与えたり、力によるしつけを行ったりすることもある。

内田先生は、似たような家庭環境で、躰スタイルだけが違うとどうなるのかを調べるために、「年収900万円以上の高所得層で、母親が四年制大学あるいは大学院を卒業し、現在は専業主婦をしている家庭の中から、共有型しつけと強制型しつけの極端な例を30組ずつ計60世帯選び、親子のやりとりを観察する」

というユニークな調査を実施しました。調査をしていると、図形を組み合わせるブロックパズルの課題でこんな違いが見られました。

共有型しつけを行っているお母さんは、お子さんをじっと見守っています。

一方、強制型しつけを行っているお母さんは子どもがパズルをやろうとすると、『そっちは難しいわよ。こっちからにきなさい』『左右の色を同じにしたらキレイでしょう』などと、何かと口を出し指図します。

「のちにこの子どもたちの学力を調査したところ、共有型しつけを受けている子どもは語彙得点、リテラシー（読み書き能力）ともに高く、強制型しつけを受けている子どもは語彙得点もリテラシーも低かったのです。」

と、内田先生は話します。なぜ、しつけスタイルが学力に影響するのでしょうか。

「子どもの学力を高めるためには、お父さんやお母さん、教育者たちが、子どもの主体性を大事にするかかわり方をすることが重要です。

共有型しつけをしている親は、こ

どもに考える余地を与える援助的なサポートが多く、子どもをよく褒め、子どもに合わせて柔軟な対応をしていました。そうした親のもとで、子どもは伸び伸びと活動していました。自分から興味を持ち、楽しいと感じているときは脳の働きが活発になります。

強制型しつけは逆に、子どもに考える余地を与えない、指示的・独断的な介入が多い、しかも過度に介入する、情緒的なサポートが少ない、褒め言葉が少ないという特徴がありました。

こうした親のもとでは、子どもは主体的に行動することができず、親の顔色を見ながらおどおどと行動していました

これでは脳の働きが低下するうえ、言われたことしかできない「指示待ち族」になる危険性があります。

しつけスタイルは母親の思いひとつで変えることができます。子どもが伸びる共有型しつけを心がけていきたいですね。」

生活面・態度面の躰は子供の  
自主性に任せずしっかりと！

お受験のプロと言われているある教育関係者も、「学力に繋がる最大の武器は家庭での躰だ」と著書で書かれていました。

必ずご家庭で指導頂きたいのが「時間厳守」と「整理整頓」の二つです。

この二つが守れない子は絶対に

良い成績は取れません。実際に中学生でもテストの成績的には5段階評価の「5」が付いて良い点数なのに「3」が付いている子がいました。

聞くと、提出物の期限が遅れた、提出物を無くした、という理由が判明。この生徒には厳しく指導しましたが、「時間厳守」と「整理整頓」はいくら塾で口うるさく指導しても、日々の生活の中でしか習慣化出来ないものです。

今からでも遅くはありません。時間がなかなか守れないお子さんの場合は、ご家庭でのルールを見直してみたいかがでしょうか？

## 「気分」に左右されない子に

小学校の中学年くらいまでは勉強、勉強よりも、外で遊ばせることを意識して下さい。

例えば、友だちと「かくれんぼ」をするだけでも「あそこからはこの角度は見えない」など、空間的な感覚（育脳トライアルの点描写で鍛えている空間認知能）を自然と身につけられますし、当然友だちと遊ぶ中でコミュニケーション能力や人と合わせる、順番を守るなどの基本的な対人能力・折衝能力を身につけられます。

少しでも他の子より早く！と、机に座らせ知識を詰め込むよりはよっぽど良い勉強になるのです。

そして、小学校の高学年になれば、毎日必ず勉強することを習慣づけていきましょう。

「今日はやる気がしないから勉強しない」という子供の発言を聞き入れてはいけません。やる気があるが無かろうが、毎日勉強するという習慣を作ることが大切なのです。

疲れていても、忙しくても毎日勉強させます。たとえ10分でも良いので「毎日勉強している」という習慣を付けることが大切です。（ただし、疲れているときなどは内容を易しめにする、量を少なくするなど調整は必要です）

## 「権利」と「義務」を教える

社会人一年目でよく言われるのが「一人前に主張はするくせに、仕事はしない・できない」ということ。我が子をこんな大人にはしたくありませんね。

権利と義務が背中合わせであることを教えられるのは、一緒にいる時間が一番長い家族なのです。小学生の間に必ず学ばせてあげて欲しいと思います。

専門家いわく、勉強が良く出来る子は権利と義務をよく心得ているらしいです。

「不自由なく食事できるのはありがたいこと。そのかわり、食後のテーブルをきれいに拭くのはあなたの仕事ね」

などと決め、取り組ませるのは義務と権利を理解する第一歩となります。

ぜひご家庭でも何か一つ我が子への「義務」を作ってみて下さい。わが子が少し変わると思いますよ。